

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2026



所 属：心理臨床学科

名 前：高野 美雪

作成日：2026 年 5 月 28 日

九州ルーテル学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

教員氏名：高野 美雪

所属：人文学部 心理臨床学科 心理学コース

1. はじめに

心理学は、受験生である高校生にとっては、高校まで学ぶことない学問分野である。その状況であっても、大学の中の進路選択の一つとして選ばれている。これは、高等教育までの心理学的支援を受ける機会の増加が考えられる。この社会情勢を受け、心理学を初めて学ぶ学生にとって貴重な機会となる大学教育は、期待に答えることが重要であるとする。さらに、本学は公認心理師養成を開始し、続いて大学院も開設され完成年度を迎えて2期生が修了したところである。また、心理臨床学科は、精神保健福祉士養成も学科設立当初に開始されており、20周年を迎えた。2015年より、スクールソーシャルワーカー（以下 SSW と記す）養成も開始された。また、大学院研究科も20周年を迎える。今後の心理学の学び、及び公認心理師養成、精神保健福祉士養成に関わる大学教員として教育手法等について検討する。

2. 教育の責任

九州ルーテル学院大学における私の担当は、学部では、公認心理師養成のための小児及び医療、教育領域の臨床心理系科目、公認心理師養成のための指定科目及び教職科目である。大学院では、発達査定、学校臨床関連の科目及び公認心理師養成のための指定科目、研究指導を担当している。2019年度までは、保育コースの科目2科目、共通科目1科目を担当していた。2020年度からは、公認心理師カリキュラム開始により、学部の指定科目、大学院の指定科目を担当している。実習関連科目では、教育分野と司法分野を主に担当し、2024年からは、教育分野を担当している。

2020年度から2022年度までは、心理学コース長を担当していた。2015年度から2018年度は図書館長、2019年度は、FD・SD委員長、2020年度から2022年度は、ハラスメント委員長、2024年度からは学科長及び倫理審査委員長として責務を果たしている。また、アドバイザーとして、学部生（3年生）を担当している。長期履修生は2025年度で全員が卒業した。

2.1. 授業科目の担当

2018 年～2026 年度で以下の表の科目を担当している。

2023 年に学科再編により、定員数が 65 名から 50 名となっている。

科目名	開講年度時期	履修者数	備考
心理学的支援法	2019 年—2020 年	60 名程度	心理
障害者・児心理学	2019 年—2020 年	65 名程度	心理
健康・医療心理学	2020 年—2024 年	60 名程度	心理
公認心理師の職責	2024 年から現在至る	30～60 名前後	心理
心理演習 I	2020 年から現在至る	10 名前後	心理
心理実習 I	2020 年から現在至る	10 名前後	心理
心理実習 II	2020 年から現在至る	10 名前後	心理
心理実習 III	2021 年から現在至る	20 名前後	心理
特別研究	2010 年から現在至る	10 名前後	心理
卒業研究	2010 年—2020 年	10 名前後	心理
カウンセリング	2011 年—2018 年	50～100 名程度	共通教育
フレッシュマンゼミ	2010 年—2020 年 2024 年（プラットフォーム化後）	20 名程度	心理
心理臨床学の基礎	2010 年—2021 年 2024 年	再編前：80 名程度 再編後：70 名程度	心理
心理臨床学の展開	2023 年から現在至る	70 名程度	
障害児保育	2013 年—2019 年	30 名程度	保育
保育の心理学 I	2017 年—2019 年	30 名程度	保育
教育相談（中・高） （2020 年より教育学校心理学： 兼担科目）	2014 年から現在至る	教職 30 名程度（2024 年度まで） 心理 50 名程度	教職 2020 年度より心理と兼担 2025 年は教育相談は旧カリ 終了となり不開講
教育心理学（中高）	2021 年—2024 年	教職 30 名程度（2024 年度まで）	教職中高のみ
教育心理学（心理）	2021 年—2024 年	50 名程度（2024 年度まで）	心理
教育心理学（幼小中高）	2025 年から現在至る	80 名程度（2025 年度）	教職（保育幼稚園教諭含む）

障害査定心理学特論	2015 年—2021 年	6—8 名程度	大学院
学校臨床心理学特論	2010 年—2021 年	6—8 名程度	大学院
教育分野に関する理論と実践	2022 年から現在至る	5 名	大学院
心理的アセスメントに関する理論と実践	2022 年から現在至る	5 名	大学院
心の健康教育に関する理論と実践	2022 年から現在至る	10 名	大学院：隔年
心理実践実習Ⅰ	2022 年から現在至る	5 名	大学院
心理実践実習Ⅱ	2022 年から現在至る	5 名	大学院
心理実践実習Ⅲ	2022 年から現在至る	5 名	大学院
心理実践実習Ⅳ	2022 年から現在至る	5 名	大学院
心理実践実習 A	2022 年から現在至る	5 名	大学院
心理実践実習 B	2022 年から現在至る	5 名	大学院
研究指導	2010 年から現在至る	2～4 名程度	大学院

■ 主要担当科目

主要担当科目は、学部では、心理学的支援法、障害者・児心理学、教育相談【中高】・教育学校心理学、健康・医療心理学の 5 科目から、2026 年現在、公認心理師の職責、教育学校心理学、教育心理学【幼小中高】、心理演習Ⅰ、心理実習Ⅰ、心理実習Ⅱ、心理実習Ⅲの 7 科目を担当している。大学院では、障害査定心理学特論、学校臨床心理学特論、研究指導 3 科目から公認心理師養成にかかる指定科目、研修指導、計 10 科目と増加した。以下、各科目の講義概要である。

<学部>

「心理学的支援法」

公認心理師養成に関わる科目であり、心理療法概要及び実践方法について講義を行っていた。2021 年度より別教員に担当を移行した。

「障害者・児心理学」

公認心理師養成に関わる科目であり、障害について事例を元に対応方法について講義を行なっている。2021 年度より別教員に担当を移行した。

「健康・医療心理学」

公認心理師養成に関わる科目であり、健康と医療について実践的内容を紹介した講義を行なっている。2025 年度より別教員に担当を移行した。

「教育相談【中高】（教育学校心理学）」

中高免許（英語、公民）取得、公認心理師養成に関わる科目であり、教育現場

の実情と支援方法について講義を行なっている。2025 年より新カリとなり、中高免許教職科目教育相談【中高】が終了し、学科選択専門科目教育学校心理学のみとなった。

「公認心理師の職責」

公認心理師養成に関わる科目であり、公認心理師の法規、業務内容等について講義を行っている。2024 年度より前任教員から引き継いだ。

「心理演習Ⅰ」

公認心理師養成に関わる科目であり、知能・発達評価について講義を行なっている。

「心理実習Ⅰ～Ⅲ」

公認心理師養成に関わる実習科目であり、各 5 分野に関わる実習コーディネート、事前・事後学修指導、巡回を担当している。心理実習Ⅰの教育分野は実習責任者となっている。

<大学院>

「障害査定心理学特論」

障害支援の際に必要な知能・発達評価について講義を行なっていた。

公認心理師養成カリキュラム移行により閉講。

「学校臨床心理学特論」

教育現場の実情と支援方法について講義を行なっていた。

公認心理師養成カリキュラム移行により閉講。

「教育分野に関する理論と実践」

教育現場の実情と支援方法について、公認心理師養成カリキュラムに沿った内容としながら講義を行っている。

「心理的アセスメントに関する理論と実践」

知能・発達評価について、公認心理師養成カリキュラムに沿った内容としながら講義を行っている。

「心の健康教育に関する理論と実践」

心の健康教育について、実践的学びを通し、公認心理師養成カリキュラムに沿った内容としながら講義を行っている。

「心理実践実習Ⅰ～Ⅳ」

検査実施体験、子どもに対するインテークなど実践的学びを通し、公認心理師養成カリキュラムに沿った内容としながら講義を行っている。

「心理実践実習 A/B」

福祉・医療・教育・司法分野の実習について実習コーディネート、事前・事後学修指導、巡回を担当している。

学部・大学院での教育以外の教育実践は以下のようなものがある。

<非常勤講師>

- 熊本大学医学部「衛生学」
公衆衛生学分野について“学校保健”に関する内容を医師となる医学科 3 年生を対象に講義を実施している。
- 放送大学大学院 研究指導
放送大学大学院において、客員教授として修論指導を実施している。
- 熊本県看護協会 実習指導者講習会「教育心理学」
看護実習生受け入れ実習機関における実習指導者養成のために毎年県内医療機関より参加する実習指導責任者 20 名程度に講義を実施している。

教育組織運営

2020 年度は、心理学コース長を担当し、心理学コースの科目編成等を実施した。2015 年度から 2018 年度は、図書館長として図書館運営管理に携わり、熊本地震対応、アウトソーシング導入を実施した。2019 年度は、FD・SD 委員長として、9 回の研修会を実施した。そのうち、学生 FD 研修会開催、また学外講師として共愛学園前橋国際大学大森学長を招聘し講演会を実施、2021 年度は、佐賀大学皆本教授を招聘しティーチングポートフォリオについて学ぶ研修会を開催した。その他、授業参観ウィーク実施、自己点検・相互評価委員会、広報委員会、学務・入試委員会、障害サポート委員会、研究推進委員会、地域連携推進委員会、研究推進委員会と研修会や報告会を共催開催を実施した。SD 委員会も 2 回実施した。この段階では、年度開始当初に共催研修会募集というシステムがなかったため、その提案を行い、犬童委員長に引き継いだ。

2020 年度から 2023 年度は、ハラスメント委員長として学生相談員のメンバー共に、学院規程の内容精査、相談記録表作成、研修会企画、パンフレット作成、HP 更新を実施している。また研究推進委員長も兼担し、研究にかかるオンライン研修会、研究助成制度にかかる活動（募集・報告会開催）、研究表彰にかかる選考作業、科研費応募推進活動などを行った。

2024 年度からは、学科長として学務入試、教務、学生支援、予算管理を行ない、3 年目を迎えた。2025 年からは心理学コースの実習科目カリキュラムの検討を実施しており、今後実習科目内容の検討、実習先の検討などを行い、負担軽減となる実習科目カリキュラムを目指し、2026 年度は教務の手続きを進めている。また、2025 年度に活動発信の場はボランティアなどの地域貢献の場や、社会ニーズの高まりにより学科で 2005 年精神保健福祉士、2022 年からは公認心理師といった国家資格養成を開始、大学附置施設こころとそだちの臨床研究所でのジャニスカウンセリングルームでの臨床活動な

ど多様な活動発信に繋がり、両立に課題が出たため、学科紀要「心理・教育・福祉研究」を最終号とし、学科、大学内での検討を重ね、最終号とし、本学紀要論文「VISIO」の年間発刊回数を増やすという発信の機会を確保し、移行することに尽力した。

2021～2023 年度は、大学院ではFD 担当となり、公認心理師養成カリキュラムをテーマに西南学院大学浦田教授招聘、2022～2023 年度は、倫理研修内容についてオンライン研修会開催した。

3. 教育の理念

少人数教育を活かし、学生個人に沿った教育を実施し、卒業までの4 年間に社会的自立に向けて自立心を育むよう心がけている。日頃より学生自身が選択し納得できる針路選択をサポートしている。また 2018 年度より公認心理師養成が開始されたことにより、公認心理師育成を目指し、教育実践を行なっている。特に、作成者の専門領域を活かし、小児医療・教育領域での支援者として活躍できる人材育成を目指している。また、大学院も公認心理師養成が開始され、より実務に近い経験を積ませている。

3.1. 理念1 社会的自立に向けた教育

大学に入学し、高校までの用意された時間割に則った学校生活から初めて大学では、自分自身のカリキュラム作成など、自ら判断することが求められる場面も増えるため細やかな支援を心がける。

大学院の公認心理師養成に際し、実習や大学院入試ではより支援者として活動できるよう指導を行っている。

3.2. 理念2 公認心理師養成を目指した教育実践

公認心理師として、必要な知識や実践方法を習得させる。また将来の出口となる国家試験合格のため、試験対策も実施している。

3.3. 理念3 小児医療・教育領域で支援者として活躍できる人材育成

子どもやその家族、支援者たちにより良い支援を提供できる人材育成を目指す。

4. 教育の方法

教育理念との関係では以下の点を重視した教育方法を取っている。

4.1. 社会的自立に向けた教育

カリキュラム決定には、最終的に自己決定で納得できる選択を促す。また、必要に応じ、社会人としてのマナーを教え、在学中に成人年齢に達することで社会に責任も生じることも伝える。

4.2. 公認心理師養成を目指した教育実践

心理師として、地域貢献を担えるよう、日頃より取り組んでほしい発展課題、情報などを提供している。また参加型の授業により現場で活躍するための技術を伝えるよう心がけている。

4.3 小児医療・教育領域で支援者として活躍できる人材育成

正確な知能・発達評価技術習得、小児を対象として面談技術、心理療法実践、保護者対応について学ぶ機会を積極的に設ける。

5. 教育改善のための努力

5.1. 改善努力1 授業評価アンケートと授業改善報告書

公認心理師養成が開始されたが、公認心理師科目における教員間で科目の位置づけの方向性が曖昧と考える。そのため、資格取得の意味や進路選択のための準備を自覚させることに時間を要した。完成年度を迎え、より進路に対する対応も柔軟になるよう計画した。実習開始時点でまだ資格取得を迷っている状況であったりする。今後は、早期の意識づけを行い、大学院進学、養成実務機関就職を視野に入れた準備を2年生から進めている。今後、他教員担当科目も含め、連続性のある授業内容、履修条件等を随時検討する必要がある。

5.2. 改善努力2

2020年度は、コロナ禍における遠隔授業となったが、心理アセスメントや療法実践は、著作権等によりオンラインでの講義でネットに載せるのは難しいというのが現状である。今後、コロナ感染拡大の場合は、対面授業実施可能な人数で1回の受講生数を調整し、2回同じ講義を行うことも予定して授業準備を行ったりした。2024年度よりコロナ収束の方向となり、対面活動に戻ったことで、より実践的な学びの機会を確保できるよう心がけている。

6. 教育の成果・評価

公認心理師養成には、指定科目履修条件を伝えるだけではなく、大学院進学、養成実務機関就職を進めるために、1年生の頃より十分なオリエンテーションを実施している。1年だけでなく、2年生オリエンテーションでのコース選択説明、2年生年度末における個別面談などを実施し、より意志確認を進めた結果、当初40名弱の希望者だったが、3年進級時には、20名前後となり、より進路に対する意識の高い学生が集まるように

なった。また、途中で公認心理師から希望を変更した学生の就職支援も行なっている。さらに、公認心理師を希望する学生だけではなく、心理臨床学科学生全体に対し、小児医療・教育領域での支援を理解を深めることを心がけたい。

7. 今後の教育に関する課題と目標

公認心理師養成の学部及び大学院完成年度を迎え、2024 年度までは大学院修了生は100%の合格率を維持できていた。2025 年度は、80%となったものの、就職率 100%は維持している。課題としては、実践の学びであり、目標として大学院での指導をさらに充実させていきたい。

その他、大学院受験指導に加えて、大学院受験をしない学生に対するその後の進路補償を十分実施している。大学院を受験しない場合の進路検討が課題であったが、支援職に就く、事務職に就くという2側面に分かれることが明らかという現状が明らかになり、各々の就職活動について適宜状況を確認し、エントリーの際の文面などの添削指導を行なっているため、引き続き、指導を行っていくことが目標である。

8. 参考資料

- (1) 担当科目シラバス
- (2) 授業評価アンケート結果